

国際教育研究所、国際教育交流に関する年次報告書を発表（11月12日）

国際教育研究所（Institute of International Education：IIE）は11月12日、国務省教育文化局（U.S. Department of State's Bureau of Educational and Cultural Affairs：ECA）と共同で、国際教育交流に関する年次報告書「2012年オープンドア～国際教育交流に関する報告～（Open Doors 2012: Report on International Educational Exchange）」を発表した。

本報告書によると、2011-2012学年度に米国大学へ留学した学生数は、前学年度比6%増となる過去最高の76万4,495人で、6年連続して増加した。

また、2010-2011学年度に海外へ留学した米国人学生数は、前学年度比1%増となる27万3,996人であった。

本報告書は、米国大学への留学生数増加の要因として、中国及びサウジアラビアからの学部課程への留学生数が大幅に増加したことを指摘する他、米国大学への留学生が米国経済に対して1年間で227億ドルの経済効果をもたらしたことも明らかにしている。

留学生受入数最多州はカリフォルニア州で、以下、ニューヨーク州、テキサス州、マサチューセッツ州、イリノイ州と続いており、留学生数が最も多い大学は南カリフォルニア大学（University of Southern California）であった。

また、留学生数の出身国別増減をみると、米国大学への留学生数における上位25ヶ国中、ブラジル、中国、フランスなど12カ国からの学生数が増加した一方で、インド、韓国、日本からの学生数は減少した。

なお、本報告書は、<<http://www.iiebooks.org/opendoors2012.html>>から購入可能。

Institute of International Education, Open Doors 2012: International Student Enrollment Increased by 6 Percent

<http://www.iie.org/en/Who-We-Are/News-and-Events/Press-Center/Press-Releases/2012/11-13-2012-Open-Doors-International-Students>